

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和 7年 3月 2日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3492700053		
法人名	社会福祉法人 佐伯さつき会		
事業所名	グループホーム ゆうわせせらぎ園		
所在地	広島県廿日市市友田280番地 (電話) 0829-74-4700		
自己評価作成日	令和7年2月6日	評価結果市町受理日	令和7年6月18日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3492700053-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	令和7年2月25日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

グループホームゆうわせせらぎ園は、自然豊かな環境に立地し、日々の暮らしの中で四季の移り変わりを楽しんで頂いています。職員は事業所理念に掲げてある、「笑顔で安心して心暖まる日々を過ごして頂く為に、目配り、気配り、心配り」を意識して取り組んでいます。四季を楽しんで頂く為に季節毎の行事も大切に、神楽の盛んな地域なので年に数回鑑賞に出かけます。日曜日は一緒にスーパーで買い物をし夕食を作っています。地域に暮らす高齢者の多様なニーズに応じるために、行政や関連事業者から必要な情報を収集し、適正な関係機関に繋げていきます。地域の方に気軽に窓口相談に来ていただける、敷居の低い施設を目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は地域との絆作りに尽力し、職員が地域清掃・認知症カフェに協力、利用者は家族協力のもと大型商業施設での買い物や神楽団・文化祭等の地域行事で外出している。又、多彩なボランティア・住民の来訪等、地域との相互交流や地域小学校から芋の差し入れ、福祉教育を通じた世代間交流もある。運営推進会議には家族代表・民生委員・老人クラブ代表・駐在所・市福祉係又は地域包括支援センター職員等が参加し、地域密着型サービスの質の向上に繋げるべく、事例検証や地域交通のリスク要因・行政情報の共有をしている。なお、能力的にはできるが実行状況として機能していない利用者の活動に関し、出来る環境の提供と職員にできる支援を目標に、利用者の残された能力を評価できるアセスメント様式の改訂に現在取り組んでいる。

自己評価	外部評価	項 目（ 西ユニット ）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（ ）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	玄関、職員室、ホームページに理念を提示し継続的に確認を行っている。また、毎朝の申し送り時に理念の唱和を実施している。	認知症研修会で習得した手法をもとに職員で考えた理念を掲示・唱和し、ケア実践上の道標としている。申し送り時に理念に対する職員の捉え方を確認し気づきを促している。又、理念を踏まえ職員の個人目標を設定し、半期毎に管理者との個人面談でその達成度を振り返り、気づきを共有している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	町内会に加入している。地域の行事に参加し、祭り等のイベントがある際には交流を図っている。町内清掃活動に参加している。	事業所は町内会に加入し職員が地域清掃に協力している。利用者は外出行事、大型商業施設での買い物や神楽団・文化祭等の地域行事で外出している。事業所に多彩なボランティア・住民の来訪等、地域との相互交流や地域小学校から芋の差し入れ、福祉教育を通じた交流等、世代間交流もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域で行われている認知症カフェへ参加し、話し相手や相談役として認知症の啓発活動を行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2ヶ月に1回の頻度で運営推進会議を行っている。近況報告や意見交換を行い、敬老会に出席し食事を一緒に摂ったり、今年度委員の方にも焼き芋に参加して、入居者の方と交流を図っている。	会議は隔月開催の対面会議で家族代表・近隣住民・民生委員・老人クラブ代表・駐在所・市福祉係又は地域包括支援センター職員等が参加し、活動・事故報告や質疑応答等を行っている。地域密着型サービスの質の向上に繋げるべく、事例検証や地域交通のリスク要因・行政情報の共有をしている。	家族会開催が中断し、事業所運営に関する情報共有が少ない状況である。今後は参加できない家族との情報共有・意見交換の仕組み作りや議題についても単発の事故等の報告から時間の経過に伴う変化を通して事業所特性を分析する等、議論を深め、意見交換に繋がる運営情報の発信を期待します。
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	運営推進会議の市担当者と情報交換、相談等を行っている。実際に生活の様子を見てもらっている。公民館からは行事のお知らせ招待を直接もらっている。	運営推進会議には市福祉係又は地域包括支援センター職員が参加している。市町担当者とは日頃から相談・報告を行い、行政主催の研修会にオンライン等で参加し協力している。又、事業所は同センター主催の近隣の認知症カフェや小学校での認知症サポーター養成講座等で協力している。	

自己 評価	外部 評価	項 目(西ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	両ユニットの出入りは自由である。閉塞感を感じないように配慮している。	年4回の身体拘束委員会や年2回の研修会等を通して職員は拘束をしない必要性を認識し具体的なケアの中で実践を重ねている。申し送り時に行動制限をしない声掛けの確認などで対応している。事業所は3階でエレベーターは施錠だが柔軟に対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	身体拘束廃止基本方針・高齢者虐待防止についてのマニュアルを作成し、人権や接遇に関する研修を実施している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	成年後見人制度を活用されている入居者様がおられる。そのため、制度に関する理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	重要事項をもとに、施設の状況や職員配置、不安や疑問などに配慮して説明している。制度の変更時その旨を説明し、文書にて同意を頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	年3回、外出行事を計画している。家族様に参加して頂くことで、円滑にコミュニケーションを図りやすい関係作りに努めている。また、些細な事でも変化があれば家族様に報告し、情報共有に努めている。苦情相談窓口を設置し、重要事項、ホームページ等で案内している。	家族とは面会時・電話連絡時・メール・運営推進会議・年1回の法人による家族アンケート等で管理者を中心に意見を把握し、職員は申し送り等で情報共有をしている。家族から外出機会の拡大の要望があり、大型商業施設での買い物等、家族を交えて年3回の外出行事を実施している。	

自己評価	外部評価	項 目 (西ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月業務会議を開催し、意見や提案を業務に反映している。	事業所は申し送り・毎月の業務会議・各種委員会・管理者と年2回又は随時の個別面談等で職員から意見を聞く機会を設け、介護方法・業務上の提案に対する支援体制をとっている。職員の提案により、利用者の動作状況に応じた人感センサーやスライド式のチェアー浴槽等の導入例がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員の資格取得を支援し、給料等の処遇面に反映している。年間計画を策定し、外部、施設内研修に参加している。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	施設内研修を計画している。各委員会の委員長を中心に、法令に定められた研修を実施している。外部研修についても、職員の希望を聞き受講している。毎年開催される法人内研究発表で日頃の取り組みを発表している。職員は個人目標と行動内容をたて、管理者と年2回の面談を行い評価している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	各老人福祉施設連絡協議会に加入している。情報交換や研修会に参加し、地域の福祉施設と定期的に交流会議を実施している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	利用開始前の面接にて、本人・家族様とコミュニケーションをしっかりと図っている。不安や心配に配慮し、安心して新しい生活をイメージして頂けるように努めている。入居前の見学についても受け入れている。		

自己 評価	外部 評価	項 目(西ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	サービス利用前の相談、見学时より家族様の不安や要望をお聞きしている。入居後は、面会時等に近況を報告している。意見や要望をお聞きしながら信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	事前に生活状況や生活環境の把握に努めている。今までの生活を大切にしながら、継続して安心して生活して頂けるように必要な支援も検討している。他のサービス利用が必要であれば特別養護老人ホーム入所、入院、在宅継続に繋げている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	家庭の延長を意識している。一人ひとりの入居者様が、個性を発揮しながら日常生活を楽しんで頂けるように日々の関わりを大切にしている。フィフティフィフティの関係を認識している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	定期的に行事にお誘いし、家族と入居者様が一緒に過ごせる時間が設けられるように配慮している。また、園だよりや面会等により近況報告を定期的に行っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	地域イベントの参加や、家族の集まり等を通じて、家族様の協力も得ながら馴染みの場所へ出かけている。また、年賀状やお手紙を通じて馴染みの方達との連絡も続いている。	訪問しやすい事業所を重視し、現在は居室等での面会が可能である。利用者が檀家である寺の住職が法話で来訪したり、家族からの手紙を受け取ったり、電話のやり取り、家族の協力で受診や大型商業施設での買い物等の外出を通して馴染みの顔や声と何気ない日常を楽しめる様に支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目(西ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	食事の準備、買い物、レクリエーション、園芸活動を通じて、一緒に楽しんで頂けるように配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	住み替えが必要な退居時には、関係者としっかりと情報共有を図り、暮らしの継続が行われるように配慮している。当法人の関係場所へ移られる方も多く、関係性は継続しやすい状況である。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の望む生活を支えられるように、生活の意向や希望の把握に努め、家族様より情報共有を行っている。	利用者毎に担当職員を決め、利用者の生活歴等から馴染みのある事が不安なく継続できる様支援し、今出来る事に着目し出来て自信になる事を大切にしている。利用者は昔農協でほうれん草を作っていたと言う家族情報を参考に、花壇の園芸で間引き作業等、強みを活かしている例がある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	本人や家族、関係機関より情報収集を行っている。また、日常生活の何気ない関りの中から新しい気づきの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日々の生活記録を大切に、状況把握に努めている。また、新しい気づきがあれば、アセスメントに記入するように努めている。		

自己評価	外部評価	項 目 (西ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の () 内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要の関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	本人様や家族様より、生活の意向や希望の把握に努めている。しっかりと情報収集を行うことで、ニーズを把握しケアプランの立案に努めている。	残された能力を評価できるアセスメント様式の改訂に取り組んでいる。能力的にはできるが、実行状況として機能していない活動に関し、出来る環境の提供と職員にできる支援を目標に居室担当と数名の職員で原案を策定している。認知症進行予防と楽しみ作りを立案の視点としている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	記録が根拠となるため、しっかりと記録に残す様に努めている。記録をもとに情報を共有し、ケアプランの見直しに努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	本人様や家族様の要望に応じて、柔軟な対応を心がけている。医療面については、訪問診療や訪問歯科を利用している。一時帰宅の車椅子車輦送迎をしたことがある。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	身だしなみについては、地域の理髪店の協力もあり、散髪や毛染めを楽しんで頂いている。また、社会福祉協議会の貸付サービスを利用し、レクリエーションを楽しんで頂けるように配慮している。公民館クラブの発表の場でもある。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	かかりつけ医を継続できる方には継続して頂いている。かかりつけ医の協力もあり、訪問診療にて定期的に健康管理を行っている。希望者には、提携している訪問歯科による口腔ケアを受けている。風邪症状等であればこちらが受診している。	協力医をかかりつけ医とすることも可能だが、殆どの利用者は利用開始前のかかりつけ医の受診継続であり、訪問診療も可能である。歯科医は基本週1回の訪問診療である。専門医の受診は家族で行っている。非常勤専従の看護師の配置もあり、健康管理等、適切な医療が受けられる体制がある。	

自己評価	外部評価	項 目 (西ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の () 内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	日頃から看護師と相談し、入居者が適切に受診や看護を受けられるように配慮している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	往診の際に医師に現状の聞き、病棟看護師長や地域連携種と連絡をとり、早期に退院ができる様に医療機関や家族様と情報共有に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居者様の状態が変化したり、重度化した場合は入院も含め、その後の対応を本人様や家族様、医師、看護師長、地域連携室と相談を行っている。入院継続や特別養護老人ホームの入所に不安なく繋げている。	利用契約時に基本的な方針を説明し、了承を得ている。原則看取りは行わず、重度化した際には早い段階から家族・医師等で話し合いを行い、できる範囲で適切な支援を行う考えである。かかりつけ医との医療連携をもとに介護施設・医療機関等への移行を含め、適切な支援を行う方針である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	緊急時対応の法定研修を行っている。マニュアルを作成し確認を行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	防災計画、消防計画を作成し、年3回訓練を実施している。自治会に加入し、地域との連携を図っている。災害BCP（業務継続計画）を作成し随時見直している。	年1回火災避難訓練（日中想定）及び年1回災害避難訓練を併設通所介護事業所と合同で、又事業所単独で年1回夜間想定火災避難訓練を利用者も参加している。BCP（業務継続計画）を策定し、3日分の備蓄整備や地域と災害時協力覚書を交わして福祉避難所として機能している。	

自己評価	外部評価	項 目（ 西ユニット ）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（ ）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	1人ひとりを尊重し、「目配り、気配り、心配りを」をモットーに接している。今年度は、スピーチロックに繋がる声掛けに配慮できるように取り組んでいる。	研修で職員の幅広い知識の習得と資質向上を図る体制がある。尊厳に配慮してケアに関わり、言葉による行動制限に繋がる対応に留意し自己覚知に繋げている。個人情報についても「持ち出さない・他言しない」を旨とし、職員間で情報交換の際は居室番号で伝える等の工夫をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	入浴の着替えを準備する際には、本人様と一緒に衣服を選んだり、行事等のイベントがある際には参加の有無について意向に配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	1人ひとりの生活ペースを大切にするように心がけている。就寝後でも、眠られない入居者様には職員と一緒に過ごす様に配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	毎朝、人前に入る前には身だしなみを整えて頂けるように配慮している。月1回は地域の理髪店にお願いし、髪をカットできるようにしている。希望者には髪のカットや毛染めを楽しんで頂いている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事の盛り付けや食器洗い等の片付けを職員と共にして頂いている。また、春から秋頃の外出しやすい季節には近所のスーパーへ買い物に出かけ、夕食作りを行っている。	法人系列施設で下地処理した食材を事業所で加熱して三食を提供し、利用者は野菜洗い等を手伝っている。又、毎週日曜の夕食は職員と食材の買い出しや調理を行っている。菜園の夏野菜を活用したり、押し寿司・焼きそば作りやソーメン流し・握り寿司の実演等、食が楽しみとなる工夫もある。	

自己評価	外部評価	項 目 (西ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一 日を通じて確保できるよう、一人ひと りの状態や力、習慣に応じた支援をし ている。	栄養士による献立により、栄養摂取や水 分補給を行い、必要に応じて個別対応を 行っている。食事量の確認も行い、嚥下 状態に応じて食べやすい食事形態に配慮 している。調理室に栄養士がいるのです ぐに相談出来る。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、 毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人 の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後、口腔ケアの声掛けを行い、必要 な方には職員が介助を行っている。希望 者については、週1回、訪問歯科により 専門的に口腔ケアを受けて頂いている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、 一人ひとりの力や排泄のパターン、習 慣を活かして、トイレでの排泄や排泄 の自立に向けた支援を行っている。	排泄チェック表を用い、個別の排泄パ ターンの把握に努めている。必要な方 には、トイレ誘導や声掛けを行っている。 尿意の訴えない方にも失敗のないよう にトイレでの排泄介助に努めている。	排泄記録表で排泄パターンを把握し、ト イレ誘導を基本としている。各居室には トイレを整備してあるが、必要に応じて ポータブルトイレを設置することもある。 排便確認の為に人感センサーを、転 倒防止の為にセンサーマットを設置して いる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲 食物の工夫や運動への働きかけ等、 個々に応じた予防に取り組んでいる。	毎朝、体操後の水分補給や食事量、排泄 の確認を行っている。下剤を使用されて いる方については排便の有無を確認しな がら看護師の指示のもと、適時対応して いる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わ せて入浴を楽しめるように、職員の都 合で曜日や時間帯を決めてしまわず に、個々に応じた入浴の支援をしてい る。	入浴は午後より行っているが、人ひとり の体調や希望に応じて入浴日の変更や時 間の変更を行っている。また、必要な方 については機械浴を行っている。定期的 に入浴剤等を使用し、温泉気分を楽しん で頂いている。	週3回の午後浴を基本に利用者の体調や 入浴習慣に合わせ好みの湯温や時間等、 柔軟に対応している。利用者の重度化に 伴い、心身の負担を考慮して座ったまま 入れる特殊浴槽の導入やシャワー浴・足 浴で対応することもある。脱衣室・浴室 の温度差によるヒートショック防止にも 配慮している。	

自己 評価	外部 評価	項 目(西ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している。	1人ひとりのリズムで、居室や フロアに設置してあるソファ ーに座り休まっている。空調 や夜間の照明等にも環境に配 慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めてい る。	処方された薬については、薬局 より準備された表を専用ファイ ルに綴じていつでも確認でき るように努めている。また、内 容に変更が生じた際にはその都 度確認を行っている。また、配 薬についてはマニュアルを作成し 、誤薬予防に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている。	日々の暮らしの中で、食事の盛 り付けや片付け等で役割や、残 された力を発揮して頂けるよう に努めている。また家族の定期 的な面会や外出、墓参りなどの 外出、差し入れ、天候の良い日 には散歩に出たりと、気分転換 や楽しみを感じて頂けるように 配慮している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそ って、戸外に出かけられるよう 支援に努めている。また、普段 は行けないような場所でも、本 人の希望を把握し、家族や地 域の人々と協力しながら出かけ られるように支援している。	天候を考慮しながら、定期的に 外出する機会を設けている。家 族様の協力を得て、墓参りや自 宅へ外泊されている方もおられ る。夕食の準備で近所のスーパー へ買い物にも定期的に出かけて いる。	利用者の希望により少人数で 花壇の水やり、日曜夕食の食材 の買い出し、家族協力も得なが ら受診・一時帰宅等への外出や 神楽団・文化祭等の地域行事、 花見等の季節の外出行事、家 族の協力で大型商業施設での買 い物・食事等、普段は行けない ような所で「非日常」を楽しむ こともある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの 大切さを理解しており、一人 ひとりの希望や力に応じて、お 金を所持したり使えるように支 援している。	本人様や家族様の希望があれば 現金を自分で管理して頂いてい る。外出先での金銭の使用につ いては、必要に応じて援助や助 言を行っている。		

自己評価	外部評価	項 目(西ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	入居者様によっては定期的に手紙やはがきが届き、やり取りをされている。携帯電話を持参されている方もおられ使用して頂いている。また、希望者には事業所の電話を使用し、家族様と連絡を取って頂いている。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節感を感じて頂けるように、フロアのテーブル上にお花を飾ったり、季節に応じた飾りを一緒に作成して季節感を楽しんで頂いている。	花壇の花・菜園の野菜、季節行事の飾り付けや利用者とする作品、秋祭りの神輿の来訪等で季節の移ろいが感じられる様配慮し、フロアは利用者が洗濯物畳み、調理を手伝う等、生活感のある空間である。浴室には座ったまま入れる特殊浴槽の導入等、自立支援に資する環境整備がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	テレビ前にソファを設置し、少人数で過ごせたり、畳コーナーもありゆっくりと過ごせる空間を整えている。また、食事の席などでも人間関係に配慮している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室には、馴染みの家具や写真などを配置し、暮らしの継続を意識して頂けるように配慮している。家族にも居室は個人スペースとして活用して頂くように説明している。	居室にはベッド・洗面台・トイレ等を設置し、家具等、使い慣れた物や書道作品等、好みの物を持ち込み居心地よく過ごせるよう工夫をしている。人感センサー・センサーマットを設置している。扉までの導線確保のためベッド等の配置を替え、環境整備を行う時もある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	居室の入り口には名札を用意している。食堂や廊下、トイレ、浴室に手摺を設置しバリアフリーで安全に移動できるように配慮している。家族にも居室は個人スペースとして活用して頂くように説明している。		

V アウトカム項目(西ユニット) ← 左記()内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらい ③利用者の3分の1くらい ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

自己 評価	外部 評価	項 目（ 東ユニット ）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（ ）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	玄関、職員室、ホームページに理念を提示し継続的に確認を行っている。また、毎朝の申し送り時に理念の唱和を実施している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	自治会に加入している。地域の行事に参加し、祭り等のイベントがある際には交流を図っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域で行われている認知症カフェへ参加し、話してや相談役として認知症の啓発活動を行っている。毎年小学校へ出向き5年生に「認知症サポーター」の講義、劇をおこなっている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2ヶ月に1回の頻度で運営推進会議を行っている。近況報告や意見交換を行い、今年度は新しい取り組みとして、委員の方にも焼き芋に参加して頂き、入居者の方と交流を図って頂く。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	運営推進会議の市担当者と情報交換、相談等を行っている。		

自己 評価	外部 評価	項 目 (東ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	両ユニットの出入りは自由である。閉塞感を感じないように配慮している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	身体拘束廃止基本方針・高齢者虐待防止についてのマニュアルを作成し、人権や接遇に関する研修を実施している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	成年後見人制度を活用されている入居者様がおられる。そのため、制度に関する理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	重要事項を基に、施設の状況や職員配置、不安や疑問などに配慮して説明している。制度の変更時その旨を説明し、文書にて同意を頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	年3回、外出行事を計画している。家族様に参加して頂くことで、円滑にコミュニケーションを図りやすい関係作りに努めている。また、些細な事でも変化があれば家族様に報告し、情報共有に努めている。苦情相談窓口を設置し、重要事項、ホームページ等で案内している。		

自己 評価	外部 評価	項 目 (東ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月業務会議を開催し、意見や提案を業務に反映している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員の資格取得を支援し、給料等の処遇面に反映している。年間計画を策定し、外部、施設内研修に参加している。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	施設内研修を計画している。各委員会の委員長を中心に、法令に定められた研修を実施している。外部研修についても、職員の希望を大切に受講している。また、毎年開催される法人内研究発表にて、取り組み内容について発表している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	各老人福祉施設連絡協議会に加入している。情報交換や研修会に参加し、地域の福祉施設と定期的に交流会議を実施している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	利用開始前の面接にて、本人・家族様とコミュニケーションをしっかりと図っている。不安や心配に配慮し、安心して新しい生活をイメージして頂けるように努めている。入居前の見学についても受け入れている。		

自己 評価	外部 評価	項 目 (東ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	サービス利用前の相談、見学時より家族様の不安や要望をお聞きしている。入居後は、面会時等に近況を報告している。意見や要望をお聞きしながら信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	事前に生活状況や生活環境の把握に努めている。今までの生活を大切にしながら、継続して安心して生活して頂けるように必要な支援も検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	家庭の延長を意識している。一人ひとりの入居者様が、個性を発揮しながら日常生活を楽しんで頂けるように日々の関わりを大切にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	定期的に行事にお誘いし、家族と入居者様が一緒に過ごせる時間が設けられるように配慮している。また、園だよりや面会等により近況報告を定期的に行っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	地域イベントの参加や、家族の集まり等を通じて、家族様の協力も得ながら馴染みの場所へ出かけている。また、年賀やお手紙を通じて馴染みの方達との連絡も続いている。		

自己 評価	外部 評価	項 目 (東ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	食事の準備、買い物、レクリエーション、園芸活動を通じて、一緒に楽しんで頂けるように配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	住み替えが必要な退居時には、関係者としっかりと情報共有を図り、暮らしの継続が行われるように配慮します。当法人の関係場所へ移られる方も多く、関係性は継続しやすい状況である。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の望む生活を支えられるように、生活の意向や希望の把握に努め、家族様よりも情報共有を行っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	本人や家族、関係機関より情報収集を行っている。また、日常生活の何気ない関りの中から新しい気づきの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日々の生活記録を大切に、状況把握に努めている。また、新しい気づきがあれば、アセスメントに記入するように努めている。		

自己 評価	外部 評価	項 目 (東ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	本人様や家族様より、生活の意向や希望の把握に努めている。しっかりと情報収集を行うことで、ニーズを把握しケアプラン立案に努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	記録が根拠となるため、しっかりと記録に残す様に努めている。記録を基に情報を共有し、ケアプランの見直しに努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれ出るニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	本人様や家族様の要望に応じて、柔軟な対応を心がけている。医療面については、訪問診療や訪問歯科を利用している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	身だしなみについては、地域の理髪店の協力もあり、散髪や毛染めを楽しんで頂いている。また、社会福祉協議会の貸付サービスを利用し、レクリエーションを楽しんで頂けるように配慮している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	かかりつけ医を継続できる方には継続して頂いている。かかりつけ医の協力もあり、訪問診療にて定期的に健康管理を行っている。希望者には、提携している訪問歯科による口腔ケアを受けている。		

自己 評価	外部 評価	項 目 (東ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	日頃から看護師と相談し、入居者が適切に受診や看護を受けられるように配慮している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	現状の把握と共に、早期に退院ができる様に医療機関や家族様と情報共有に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居者様の状態が変化したり、重度化した場合は入院も含め、その後の対応を本人様や家族様、医療機関と相談を行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	緊急時対応の法定研修を行っている。マニュアルを作成し確認を行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	防災計画、消防計画を作成し、年2回訓練を実施している。自治会に加入し、地域との連携を図っている。		

自己 評価	外部 評価	項 目（ 東ユニット ）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（ ）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	1人ひとりを尊重し、「目配り、気配り、心配りを」をモットーに接している。今年度は、スピーチロックに繋がる声掛けに配慮できるように取り組んでいる。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	入浴の着替えを準備する際には、本人様と一緒に衣服を選んだり、行事等のイベントがある際には参加の有無について意向に配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	1人ひとりの生活ペースを大切にするように心がけている。就寝後でも、眠られない入居者様には職員と一緒に過ごす様に配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	毎朝、人前に入る前には身だしなみを整えて頂けるように配慮している。月1回は地域の理髪店にお願いし、髪をカットできるようにしている。希望者には髪のカットや毛染めを楽しんで頂いている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事の盛付けや食器洗い等の片付けを職員と共にして頂いている。また、春から秋頃の外出しやすい季節には近所のスーパーへ買い物に出かけ、夕食作りを行っている。		

自己評価	外部評価	項 目 (東ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一 日を通じて確保できるよう、一人ひと りの状態や力、習慣に応じた支援をし ている。	管理栄養士による献立により、栄養摂取 や水分補給を行い、必要に応じて個別対 応を行っている。食事量の確認も行い、 嚥下状態に応じて食べやすい食事形態に 配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、 毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人 の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後、口腔ケアの声掛けを行い、必要 な方には職員が介助を行っている。希望 者については、週1回、訪問歯科により 専門的に口腔ケアを受けて頂いている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、 一人ひとりの力や排泄のパターン、習 慣を活かして、トイレでの排泄や排泄 の自立に向けた支援を行っている。	排泄チェック表を用い、個別の排泄パ ターンの把握に努めている。必要な方 には、トイレ誘導や声掛けを行っている。 尿意の訴えない方にも失敗のないよう にトイレでの排泄介助に努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲 食物の工夫や運動への働きかけ等、 個々に応じた予防に取り組んでいる。	毎朝、体操後の水分補給や食事量、排泄 の確認を行っている。下剤を使用されて いる方については排便の有無を確認しな がら看護師の指示のもと、適時対応して いる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わ せて入浴を楽しめるように、職員の都 合で曜日や時間帯を決めてしまわず に、個々に応じた入浴の支援をしてい る。	入浴は午後より行っているが、人ひとり の体調や希望に応じて入浴日の変更や時 間の変更を行っている。また、必要な方 については機械浴を行っている。定期的 に入浴剤等を使用し、温泉気分を楽しん で頂いている。		

自己 評価	外部 評価	項 目 (東ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している。	1人ひとりのリズムで、居室や フロアに設置してあるソファ ーに座り休まっている。空調 や夜間の照明等にも環境に配 慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めてい る。	処方された薬については、薬局 より準備された表を専用ファイ ルに綴じていつでも確認でき るように努めている。また、内 容に変更が生じた際にはその都 度確認を行っている。また、配 薬についてはマニュアルを作成 し、誤薬予防に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている。	日々の暮らしの中で、食事の盛 付けや片付け等で役割や、残さ れた力を発揮して頂けるように 努めている。また、家族の定期 的な面会であったり、差し入れ 、天候の良い日には外に出たり と、気分転換や楽しみを感じて 頂けるように配慮している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそ って、戸外に出かけられるよう 支援に努めている。また、普段 は行けないような場所でも、本 人の希望を把握し、家族や地 域の人々と協力しながら出かけ られるように支援している。	天候を考慮しながら、定期的に 外に出る機会を設けている。家 族様の協力を得て、墓参りや自 宅へ外泊されている方もおられ る。夕食の準備で近所のスーパ ーへ買い物にも定期的に出かけ ている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの 大切さを理解しており、一人ひ とりの希望や力に応じて、お金 を所持したり使えるように支 援している。	本人様や家族様の希望があれば 現金を自分で管理して頂いてい る。外出先での金銭の使用につ いては、必要に応じて援助や 助言を行っている。		

自己 評価	外部 評価	項 目 (東ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	入居者様によっては定期的に手紙やはがきが届き、やり取りをされている。携帯電話を持参されている方もおられ使用して頂いている。また、希望者には事業所の電話を使用し、家族様と連絡を取って頂いている。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節感を感じて頂けるように、フロアのテーブル上にお花を飾ったり、季節に応じた飾りを作成して季節感を楽しんで頂いている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	テレビ前にソファを設置し、少人数で過ごせたり、畳コーナーもありゆっくりと過ごせる空間を整えている。また、食事の席などでも人間関係に配慮している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室には、馴染みの家具や写真などを配置し、暮らしの継続を意識して頂けるように配慮している。家族にも居室は個人スペースとして活用して頂くように説明している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	居室の入り口には名札を用意している。食堂や廊下、トイレ、浴室に手摺を設置しバリアフリーで安全に移動できるように配慮している。家族にも居室は個人スペースとして活用して頂くように説明している。		

V アウトカム項目(東ユニット) ← 左記()内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらい ③利用者の3分の1くらい ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームゆうわせせらぎ園

作成日 令和7年4月14日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点，課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	10	家族会開催が中断中であり、家族様の要望を聞く機会が減少している。	年2回、家族会を開催し、生活に対する要望や、運営情報等について意見交換を行う。	7月のそうめん流し、12月のクリスマス会等のイベント時に家族様をお誘いします。その後、家族様と意見交換する場を設けます。	1年
2					
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。